

インフォメーション・コーナー

会 告

○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	74
○2021年度(第70回)農業農村工学会賞候補の推薦(再) 締切 10月31日	75
○CPD 機構から重要なお知らせ(再)	76
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	76
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	76
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局	78
○第77回京都支部研究発表会の開催(第3報)	79
○第33回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催(誌上発表のみ) 発表申込締切 10月23日	79
○土壌物理研究部会第59回研究集会のご案内 10月30日開催	80
○令和2年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦 応募締切 11月13日	80
○第30回農村道路研究部会研究集会の開催(第1報) 発表申込締切 12月11日	81
農業農村工学会論文集 内容紹介	82
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	84
学会記事	86

第88巻第11号予定

展望：宮下武士

小特集：農業水利施設における外来生物対策

報文：遮光ネットによる農業用水路のオオカナダモ駆除効果の検討：浅井俊光ほか

報文：ブラジルチドメグサの物理的防除法の検討および水生動物の生息空間としての実態：中嶋佳貴ほか

報文：北海道の水路法面保全と外来草本植物の適正管理への留意点：宗岡寿美ほか

報文：農業被害をもたらす侵略的外来水草の対策と課題：嶺田拓也ほか

技術リポート

北海道支部：北海道鹿追町における国営土地改良事業の効果：相原慎一ほか

東北支部：ラムサール条約登録湿地隣接地における地域農業再生：平野 陽

関東支部：神奈川県における多様な担い手による農地の有効活用の現状：平岡稔幸

京都支部：宮竹サイホン改修工事における諸課題とその対応：茶志川孝治ほか

中国四国支部：水田の樹園地化：作野幸之助

九州沖縄支部：阿蘇地域における航空レーザー測量成果の草地管理への活用：増田慎也ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年10月30日	土壌物理研究部会	第59回研究集会	広がる土壌物理： 海外で頑張る若手研究者	Web形態	88巻10号
2020年11月(予定)	中国四国支部	第75回講演会・第44回地方講習会	—	Web形態	88巻5,8,9号
2020年11月9~22日	東北支部	令和2年度総会・第62回研究発表会・ 第52回研修会・第42回地方講習会	—	Web形態	88巻6,7,8号
2020年11月12~25日	九州沖縄支部	令和2年度支部大会	—	Web形態	88巻4,9号
2020年11月18日~	関東支部	第71回支部大会	—	Web形態	88巻6,8号
2020年12月(予定)	京都支部	第77回支部研究発表会	—	Web形態	88巻4,6,10号
2020年12月15日	北海道支部	第69回研究発表会	㊦ —	Web形態	88巻9号
2021年1月19日	農村道路研究部会	第30回研究集会	㊦ 農道施設の点検について	Web形態	88巻10号
—	水文・水環境研究部会	第33回シンポジウム	—	誌上発表	88巻10号

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2020年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途^{など}を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

- ③ ①, ②以外の分野および学際的・学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ その他(学会に一任)

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

2021 年度（第 70 回）農業農村工学会賞候補の推薦（再）

2021 年度（第 70 回）の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞 は学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）をご参照くを除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。 ださい。
 締切は、2020 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程

2021 年度（第 70 回）農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績			
賞の対象期間	2015 年 10 月から 2020 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 5 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2017 年 10 月から 2020 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2017 年 10 月から 2020 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2019 年 10 月から 2020 年 9 月までに発表されたものとする。	2019 年 10 月から 2020 年 9 月までに発表されたものとする。	2018 年 10 月から 2020 年 9 月までに発表されたものとする。	2015 年 10 月から 2020 年 9 月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2010 年 10 月から 2020 年 9 月までに発表されたものとする。	2015 年 10 月から 2020 年 9 月までにを行った活動とする。	2018 年 10 月から 2020 年 9 月までにを行った活動とする。	2015 年 10 月から 2020 年 9 月までにを行った活動とする。	2015 年 10 月から 2020 年 9 月までにを行ったものとする。	2015 年 10 月から 2020 年 9 月までにを行ったものとする。	2018 年 10 月から 2020 年 9 月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・硬覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2020 年度末に 65 歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。
選考の方法	学会選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2021 年度（第 70 回）農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2020 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

CPD 機構から重要なお知らせ (再)

農業農村工学会継続教育部



1. 2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)はpdfの掲載となります

CPD 登録者様へのサービスとして、前年度分の「CPD 取得一覧表」について、紙媒体による発送(8月に途中経過版・11月に最終確定版)と、Web上のpdfでの掲載(11月の最終確定版のみ)をさせていただいていましたが、CPD 登録者様へのサービス向上と新型コロナウイルス感染防止による業務遅延を防ぐため、2020年8月に予定していた2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)の発送は行わず、Web上のpdf掲載に代えさせていただきます。なお、2019年度分「CPD 取得一覧表」(最終確定版)は従来通り11月に発送予定です。

前年度の「CPD 取得一覧表」	これまで		2020年度	
	紙媒体発送	Web上pdf	紙媒体発送	Web上pdf
8月(途中経過版)	○	×	×	○
11月(最終確定版)	○	○	○	○

2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)が必要な方は、2020年8月以降に技術者継続教育機構のホームページ画面から各自、次の手順によりダウンロードをお願いいたします。

■ Webシステムを利用する > ⇒ Web利用メニュー画面へ > Web利用メニューへ > ログイン > ○ CPD取得一覧表のダウンロード > ○ 2019年度分一覧表 > ダウンロード

2. 前年度のCPD記録の申請期限の変更について(2021年度より)

これまで、前年度の研鑽記録の申請期限を「翌年度の8月末日」としていましたが、多くのCPD登録者様から「前年度のCPD結果の確定を早くしてもらいたい」との要望があることから、2021年度より、前年度の研鑽記録の申請期限を「翌年度の6月末日」に変更し、前年度の審査結果の早期確定を図ります。2020年度記録の申請期限は「2021年6月30日」となりますので、研修受講や自己学習の実施後は、速やかにWeb登録をお願いします。

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例:学会誌10号掲載の問題は11月末日が解答期限)

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsdre.or.jp/journal/>)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

なお、投稿表・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

学会誌第 88, 89 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第 88 巻第 11 号	農業水利施設における外来生物対策 (仮)	終了
12 号	農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲医師を偲ぶ— (仮)	終了
第 89 巻第 1 号	農業農村工学における ICT 利活用の現状と将来展望 (仮)	終了
2 号	中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学 (仮)	終了
3 号	地域資源の活用による中山間地域の地域活性化 (仮)	終了
4 号	With & Post・コロナ時代の農業・農村のあり方 (仮)	10月15日
5 号	農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策 (仮)	11月10日
6 号	研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方 (仮)	12月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒 105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
 TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
 E-mail : henshu@jsidre.or.jp

第 89 巻第 4 号テーマ「With & Post・コロナ時代の農業・農村のあり方」(仮)

新型コロナウイルスの感染拡大により発出された緊急事態宣言は、農業や農村にも大きな影響を及ぼしました。外国人労働者・実習生の入国制限や帰国による担い手の大幅な不足および休校や営業自粛などによる農産物需要と農家収入の減少などは、これまで推進していた農業農村施策に急ブレーキをかけることとなってしまいました。この状況が長期化すればわが国の農業農村の衰退が急速に進む恐れがあります。

一方で人口密度が低い農村に新しい生活の拠点を定める動きも顕在化しており、都市部から農村への移住を後押しする地域政策なども生み出されています。

コロナ禍の下で急速に進んだテレワークは、都市から地方への人の流れを促し、農村の若者人口の増加、新たな担い手の確保や地域の活性化につながることも期待されます。また、インターネット通販の利用の急増は新たな農村と都市の関わりを生

み出すかもしれません。このような状況の中、視点を変えグローバルと反対のローカルから出発して社会を考え、地域でさまざまな循環とコミュニティを作っていく方向性が考えられます。

2020年3月に閣議決定された新たな食料・農業・農村基本計画では、特に農村振興に力点をのたした施策が示されています。これらに取り組むに当たり、課題はコロナ時代を踏まえた新たな農業・農村の姿をどのように描くかです。

今回の感染拡大は、現代の一極集中の社会構造の脆弱性を象徴する出来事であり、令和の時代はこれらを根本的に見直していく機会です。

With & Post・コロナ時代の農業・農村に対応した姿、持続的な振興を実現するため農業農村工学の課題と解決策に関する報文を広く募集します。

第 89 巻第 5 号テーマ「農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策」(仮)

近年の水害の激甚化を踏まえ、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるよう、関係省庁の密接な連携の下、令和元年12月12日に「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針」(以下、「基本方針」という)が策定され、すべての既存ダムを対象に洪水調節機能の強化に向けた検証を行い、一級水系を対象に令和2年の出水期から新たな運用を開始するとともに、二級水系のダムについても、緊急性に応じて順次実行していくこととされました。その後、基本方針に基づき、令和2年5月末までに一級水系109水系のうちダムのある全99水系において治水協定の合意がはかられ、洪水調節機能の強化に向けた取り組みが開始されています。その直後の7月には、九州地方をはじめとする全国各地で梅雨前線による令和2年7月豪雨が発生し、関連する多くの事例や課題も浮き彫りにされたと考えられます。

今回の取り組みでは、農業用ダムも対象になっています。しかし、ゲートレスダムが多くを占め、管理も土地改良区や市町村で委託管理されている場合が多いことから、事前放流の操作技術への新たな技術的対策が必要です。さらに、利水ダムでは、ダム水位を低下させるための放流施設も大容量なものは多くないと考えられます。農業用ダムの洪水調節機能などの公益的機能の発揮は重要な社会貢献である一方、社会的責任も重大であることから今後の具体的かつ安全・確実な対応策について、ソフト(降雨予測、事前放流操作技術、水位低下後の貯水管理、AI利用など)・ハード(事前放流のための施設整備など)の両面から十分な技術検討が必要です。このことから、農業用ダムの洪水調節機能の発揮の事例紹介や事前放流を実施する課題とその対応策について、関連の報文を広く募集します。

第89巻第6号テーマ「研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方」(仮)

ここ数年、学会活動の大きなテーマは「人材確保と人材育成」です。これまでに、若手人材の確保のために学会大会講演会時における各種企画やスチューデントセッションの実施、学生会員の2020年度会費等の無料化、農学部系学生向けのLINE公式アカウントの開設、土地改良建設協会との「農業農村工学系の技術者育成、確保に向けた連携協定書」の締結、若手研究者育成のための学術基金の拡充など多くの取組みがなされ今後効果が期待されています。同時に、人材育成の主要な場である大学組織内において農業農村工学分野が適切に評価される取組みも急務です。

近年、学部や修士課程の学生確保は一定の水準を維持しています。しかし、当分野における博士課程の学生数は減少傾向です。そして、最近重要視されている社会人の大学院生数も当分野では伸び悩んでいます。この原因は、魅力ある課題の提示、

多様な就職先の確保と提示、財政的な支援などが十分ではないと言われていました。また、大学組織内における当分野の存在価値の低下は、今後の研究や高等教育を担う人材育成の面で大きな課題です。学術振興の視点に立てば、実学が重視される当分野においても基礎的、先端的な研究は大学内の実績・業績向上のために不可欠です。また大学では、インパクトファクターのある国際誌への掲載実績に重点がおかれ、水土の知や農業農村工学論文集などの、和文中心で、オンライン学術データベース(Web of ScienceやScopusなど)への登録がされていない論文の業績評価説明に苦慮する実態も報告されています。

このため、農業農村工学の果たすべき社会的使命と人材育成の必要性などを踏まえ、当分野の実績・業績が適切に評価されるための戦略や人材育成のあり方等について、会員から多くの報文を期待します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター(IF)は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに

国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・Editors 11カ国から20名

・Editorial Advisors 29名

・Chief Managing Editor

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural

Systems Engineering, Seoul National University, Korea

・Managing Editors

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Masayuki FUJIHARA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science,
Kangwon National University, Korea

Dr. Toshiaki IIDA

Graduate School of Agricultural and Life Science,
The University of Tokyo, Japan

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)

・ **Dr. Inhong SONG**

Department of Landscape Architecture and Rural
Systems Engineering, Seoul National University
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA

TEL : +82-2-880-4581

FAX : Fax: +82-2-873-2087

E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になり
ます。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者である
こと。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載してい
ます。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000円+税

学生会員 (院生含む) 4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず
農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度
からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっていま
す。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会
員番号を明記の上、お申し込みください。

第77回京都支部研究発表会の開催 (第3報)

1. 研究発表会の現地開催中止とWeb開催について

第77回京都支部研究発表会については、本年11月11、12日に福井県での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため同県での現地開催を中止します。代替としてオンデマンド方式のWeb開催(Webサイトに発表動画を掲載)を検討しております。講演要旨集はこれまで通り発行します。Web開催の内容と参加申込みについては、詳細が決まり次第、農業農村工学会ホームページ、学会誌にてお知らせする予定です。

2. 問合せ先 (大学事務局, 開催地事務局)

(1) 大学事務局 (Web開催, 講演要旨集原稿)

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学大学院農学研究科 多田明夫

E-mail : atada@kobe-u.ac.jp

TEL & FAX : 078-803-5897

(2) 開催地事務局 (参加申込み, 講演要旨集発送)

〒910-8580 福井県福井市大手3-17-1

福井県農林水産部農村振興課内

第77回農業農村工学会京都支部研究発表会開催地事務局

担当 木下慎也

E-mail : s-kinoshita-g3@pref.fukui.lg.jp

TEL : 0776-20-0452 FAX : 0776-20-0656

第33回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催 (誌上発表のみ)

第33回水文・水環境研究部会シンポジウムは11月以降も新型コロナウイルス感染症の流行が継続する可能性が高いため、幹事会によるメール審議の結果、対面のシンポジウム方式での開催は難しいとの結論に至りました。

そこで、本年度は以下のような方針で行うものいたします。

- (1) 令和2年度の水文・水環境研究部会シンポジウムは開催しない。
- (2) 部会誌「応用水文」(No.33)は発行し、誌上発表のみとする。
- (3) 発表論文の査読は、例年通り実施する。

1. 今後のスケジュール

- (1) 10月23日(金)までに投稿者名、仮タイトル、査読の有無を下記申込み先までお知らせください。
- (2) 12月4日(金)までに原稿を下記提出先にご提出ください。
- (3) 講演原稿は10ページ以内で、部会誌「応用水文 No.33」に「論文(査読原稿)」または「部会報告(査読なし原稿)」として掲載され頒布されます。原稿フォーマットは部会ホームページに掲載してありますので、そちらをご参照ください。

http://www.jsidre.or.jp/suimon-mizukankyo_journal/

2. 申込み・原稿提出および問合せ先
岡山大学環境理工学部 工藤亮治

E-mail: rkudo@okayama-u.ac.jp

土壌物理研究部会第59回研究集会のご案内

- | | | |
|-------------|--|---|
| 1. 主催 | 農業農村工学会土壌物理研究部会 | University of Agricultural Sciences |
| 共催 | 土壌物理学会 | 15:35~16:20 |
| 2. 日時 | 令和2年10月30日(金) 13:00~17:00 | 「乾燥地における可変流量灌漑と収量予測モデルの検証」 |
| 3. 場所 | オンライン開催 | 伊東雄樹 Gilat research center, Agricultural |
| 4. 参加費 | 無料 | Research Organization (ARO) |
| 5. メインテーマ | 広がる土壌物理: 海外で頑張る若手研究者 | 16:20~17:00 総合討論 |
| 6. プログラム | | 17:00 閉会の挨拶 |
| | 総合司会: 濱本昌一郎 (東京大学農学部) | 7. 開催方法について |
| 13:10 | 開会の挨拶 | ・オンライン (Zoom) にて開催いたします。 |
| 13:15~14:00 | 「多孔質体中におけるカルサイト沈殿時のスペクトル誘電分極」 | ・申込みにはPeatixを使う予定です。申込みサイト等の情報は部会ホームページおよびメーリングリスト配信にて後日お知らせいたします。 |
| | 伊豆本 聡 Agrosphere, Institute of Bio- and Geosciences, Juelich Research Center | 8. 問合せ先 |
| 14:00~14:45 | 「アマゾン高層タワー観測所 (ATTO) における研究動向 (仮題)」 | 農業農村工学会土壌物理研究部会事務局 |
| | 小宮秀治郎 Department of Biogeochemical Processes at the Max Planck Institute for Biogeochemistry | 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 |
| 14:50~15:35 | 「農地土壌における有機物と粘土画分の相互作用とそれが炭素貯留、土壌構造および水・溶質移動に及ぼす影響」 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 |
| | 福樹純平 Sveriges lantbruksuniversitet, Swedish | 生物・環境工学専攻環境地水学研究室 |
| | | 西村 拓, 濱本昌一郎 |
| | | TEL: 03-5841-5350, 5351 FAX: 03-5841-8171 |
| | | E-mail: nnsbukai@gmail.com |
| | | 土壌物理研究部会ホームページ: |
| | | http://www.jsidre.or.jp/dojyo/ |
| | | ※都合により一部変更することがあります。 |

令和2年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦

材料施工研究部会では、平成15年2月発刊の図書「建設材料-地域環境の創造-」の出版記念行事の一環として「研究奨励基金」を設け、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる優れた研究成果をあげた学会員を表彰いたします。令和2年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞の候補を下記の要領で公募いたしますので、会員各位には自薦または他薦による応募をお願いいたします。

なお、過去の受賞者は本部会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/zaiseko/>) をご参照ください。

令和2年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞募集要領

1. 受賞対象者

本研究奨励賞は、農業農村工学の材料施工関連分野において優れた研究成果をあげた者に与えられる。

1.1 対象研究業績

当該前年度または前々年度に発行された農業農村工学会論文集および学会誌、農業農村工学会大会講演会、材料施工部会シンポジウムの材料施工関連分野で発表された研究であること。

- (1) 研究成果が材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できること。
- (2) 材料施工関連分野とは、材料、施工、応用力学および土質力学を指す。

1.2 受賞対象者の資格

- (1) 農業農村工学会の正会員または学生会員であること。
- (2) 対象となる研究業績の主体者かつ発表者または第一著者であること。
- (3) 既受賞者は3年間選考対象から除く。

2. 応募資料

(1) 推薦書

本学会ホームページの奨励賞推薦書 (http://www.jsidre.or.jp/zaiseko_suisen/) にある推薦書ファイル (zaiseko_prize-form.doc) をダウンロードし、必要事項を記入すること。推薦書は1ページ以内にまとめること。

(2) 対象となる研究業績の別刷り

※ (1), (2) いずれも PDF を下記部会長宛に送信すること。

3. 応募締切

令和2年11月13日(金)

4. 応募先・問合せ先

〒790-8566 愛媛県松山市樽味3-5-7

材料施工研究部会 部会長 小林範之

TEL: 089-946-9929

5. 審査

農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞選考委員会が審査し、幹事会により決定する。

審査結果は、別途受賞者に通知する。

6. 表彰

受賞者には、令和2年に開催予定の本研究部会シンポジウムにおいて表彰するとともに副賞を授与する。また、表彰の結果は部会報などで公表する。

第30回農村道路研究部会研究集会の開催(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会農村道路研究部会

2. 特定課題 農道施設の点検について

(1) 招待論文: 特定課題

(2) 研究論文: 特定課題および農村道路に係わる研究課題

(3) 技術報文: 農村道路に係わる調査・計画・施工の自由課題

3. 現地研修 本年は中止とします。

4. 期日 令和3年1月19日(火)

5. 発表申込

(1) 研究集会で研究論文、技術報文を発表するためには発表申込みが必要です。発表申込みおよび原稿作成要領は、農村道路研究部会ホームページ (<http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/Welcome.html>) よりダウンロードすることができます。

(2) 発表申込み書に必要事項記入の上、E-mail に添付して申込み先に提出してください。表題は「農村道路研究部会研究集会の発表申込み」としてください。

(3) 発表申込期限 令和2年12月11日(金)

(4) 原稿提出期限 令和2年12月18日(金)

6. 会場

オンライン形式 (Zoom を予定)

7. 参加費

無料 (試行的なオンライン形式のため無料とします)

8. 申込み

以下の項目をご記入の上、E-mail にてお申し込みください。その際、表題欄には「農村道路研究部会・研究集会への参加申込」と明記してください。

①参加者氏名 ②所属機関名 ③所在地 ④TEL, E-mail アドレス ⑤CPD 個人登録者番号 (登録希望の方)

9. 申込み先

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15-4-1

北海道科学大学都市環境学科 川端伸一郎

E-mail: kawabata@hus.ac.jp

10. 参加申込締切 令和3年1月8日(金)

11. テキスト PDF ファイルのダウンロード形式

12. その他 詳細は、学会誌次号に掲載予定です。